

平成 25 年度 第 1 回 富田林市総合計画フォローアップ会議 会議録概要

◆日 時：平成 25 年 10 月 30 日（水）（13：30～16：30）

◆場 所：富田林市役所 5階 介護認定審査会室

◆出席者：大西委員、前川委員、湯口委員、吉川委員（座長）

事務局：山下、谷口、塚本、北村

発言者	発言概要
事務局	<p>■フォローアップ会議設置要綱により、会議の役割と組織の概要について説明。</p> <p>■委員紹介 吉川委員、大西委員、前川委員、湯口委員</p> <p>■事務局紹介 山下、谷口、塚本、北村</p> <p>■座長・職務代理の選出 要綱第4条の規定により互選により座長を選出願う。 ⇒吉川委員を座長に選出。 座長の指名により、職務代理に前川委員を選出。</p> <p>～座長による議事進行～</p>
座長	<p>■会議の公開について ⇒「公開」とすることに決定。</p> <p>■会議の傍聴人数について ⇒会議の規模を勘案し、5名程度とすることを決定。</p> <p>■議事録の取扱いについて （事務局より案の説明後） ⇒・議事録の作成は事務局で行う。 ・議事録は委員の発言内容の要約筆記としてまとめ、次の会議の冒頭で修正等を含めた内容確認を行う。 ・発言者氏名はそのまま記載するのではなく、「座長」、「委員」、「事務局」といった職名で表記する。 ・議事録は公開することとすることを決定。</p> <p>■会議のルールについて （事務局から案の説明後） ⇒・1回の会議は、最大3時間とし、会議運営が円滑になるように努める。 ・発言は座長の許可を必要とする。 ・資料配布は座長の許可を必要とする。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局からの資料は、事前に配布する。</li> <li>・会議の冒頭で、前回「会議録」の確認と承認を行う。</li> <li>・評決事項は座長を除く委員の多数決による。ただし、賛否同数の場合には座長が決する。 ことを決定。</li> </ul> <p>■会議の開催日程と回数について (事務局から案の説明後) ⇒本日の第1回会議を含め、第2回を11月20日(水)、第3回を12月25日(水)、年明け1月に最終のまとめと市長への報告会を兼ねた第4回、の合計4回の開催を予定することに決定。</p> <p>～今年度のフォローアップ会議の議論の方向性について～</p>
座長	基本的にはフォローアップ会議設置要綱の目的にそって、基本計画の実施状況の調査を行うが、今年度はどういった視点で行うか。
委員	24年度フォローアップ会議報告書で提言したことでもあるが、次期総合計画についての市の方向性について、最初に事務局に確認したい。 次期総合計画の策定を前提としたフォローアップなのか、そうでないのかによって我々が議論する内容も違ってくるのではないかと考えている。
事務局	現時点では、市の進む大きな方向性を示す総合的な計画の重要性は認識しているが、地方自治法(以下、「法」)が改正され、基本構想の策定義務がなくなったことを受けて、本市にはどういった計画が必要なのか、どういったプロセスを踏むのが望ましいのか、という根本的なところを慎重に議論したいと考えている。
委員	法改正によって、基本構想の議会の承認も不要となったが、議会はどのように考えているのか。
事務局	議会の意向はまだ伝わってきていない。 先の9月議会では、第4次総合計画の進捗や評価、総括といった視点での質問があった。
委員	法改正後の他市の状況はどうか。
事務局	計画終期が各市で異なるが、次期総合計画策定に向けての取り組みを始めている自治体もある。大阪府下では3自治体が策定済である。 総合的な計画を策定しないという選択をする自治体はおそらくないであろうと考えている。 ただ、(総合計画の策定期間は概ね2カ年程度を要するため)平成23年の法改正前から策定準備を進めていた自治体は、従来型の総合計画を策定しているが、今後は

	<p>法改正の趣旨をふまえ、従来型ではない計画を策定する自治体もあるだろうと推測される。</p>
委員	<p>第4次総合計画は市民参加をひとつの柱としている。</p> <p>次期総合計画を策定するのかもしれないのか、こういった性質の計画がいいのかという議論が市内部だけで行われるのではなく、その議論に市民が関わらないと、第4次総合計画の理念が生きてこないのではないかとということが心配。</p> <p>24年度のフォローアップ会議報告書でも提言しており、今年度のフォローアップ会議もそういった視点をもって参加したいと思っている。</p>
委員	<p>今までのフォローアップ会議報告書を市はどう認識しているのだろうか。</p>
座長	<p>法改正で枠組みがなくなり、義務感ではなく、計画が必要という意識が芽生えて作るのであれば、いい方向に進む可能性が高い。</p> <p>ポイントとなるのは、行政内での意思決定機関はどこなのかということを確認することではないだろうか。</p> <p>そこを、24年度フォローアップ会議報告書では、次期総合計画の策定過程という形を使って、行政が計画を立て、物事を決めるクリエイティブな部分を、組織立てや、過程も含め、明確にして欲しいという投げかけをした。</p>
委員	<p>市民の、市に対する信頼性をより高めるために、市がどういう根拠でそう決めたのかが議論されないといけないと思う。</p> <p>特に行財政改革（以下、「行革」）では、経費を減らすことが良いという観点で、切り捨てで事が進んでいるように見える。</p> <p>どういう根拠でいくら減らすか、仮説を実証できるような形にすべき。そうしないと、一方で市民参加や市民との協働、一方で行革を行う中で、市が一方向的に市民を安い労働力としてだけ捉えることがメインになると、今は良くても数年で市民が疲れ果て、結果として地域の力がなくなってしまう可能性がある。</p> <p>そういったところにも踏み込んで、市の基本的な方向性を決めないと、市が破たんしてしまう可能性もある。</p> <p>そういう意味で、市でしっかり議論し、市民を納得させる形が必要であると思う。</p>
座長	<p>市の計画策定プロセスで見えない部分というのは、市長の施政方針を総合計画の施策大綱に当てはめるのは誰なのかという部分である。</p> <p>企業でいうところの取締役会や最高経営会議と位置づけられるような、市長の方針や優先順位を、計画という理念に落とし込むプロセスは、市のどこで意思決定なされているのか知りたい。</p> <p>計画は、そういうクリエイティブな部分がないと実現できないと思う。</p>
委員	<p>第3次総合計画は策定したが、十分活用されなかったと聞いている。第4次総合計画はそういうことがないように提言してきたが、市はどう考えているのか。</p>

事務局	<p>その点では、第3次と第4次は大きく変わっていると思う。</p> <p>第4次でいう横系の意識は、この計画によって高まったと実感できる。</p> <p>それに加え、事務執行においては、事務事業評価、実施計画の3年間のローリング、PDCAサイクルといった考え方は以前にはなかったもの。</p> <p>反省点は、予算システムと総合計画・事務事業評価の考え方において、連携がしづらいこと。これは業務をより効率的に行っていくためにも、今後検討する必要があると非常に感じている。</p>
座長	<p>横系に関しては、第4次策定時に、市民委員の案に、対抗できる意見を行政が意見を持ちあわせてなかったため、採用されていると私は感じている。</p> <p>先ほど、事務局が言われた、PDCA サイクルについても、第4次総合計画策定時に市民委員から出てきた意見である。</p> <p>本来的には、行政からそういったアイデアが出てこないといけない。だから、先ほどの話（意思決定機関）に戻ると、行政内部にそういうことを考えるしくみ・プロセス・部局等をさらに強化しなければならないと思う。</p>
委員	<p>第4次策定時、市民委員は20回近い市民懇談会を経て、総合計画審議会に臨んだが、特に行政職員が市民とのやりとりに慣れてなかったこともあり、市民懇談会の雰囲気と、総合計画審議会との雰囲気にギャップがあったのは確かである。しかしながら、ルールに従って、第4次総合計画審議会の議論は進められており、ただ単に市民委員の意見が通っているというのは、そのルールを無視しない範囲でのことだったと理解している。</p>
座長	<p>（総合計画審議会での議論を否定しているのではなく）言い方を変えると、横系の考え方も、市民委員から出てきた発想であり、我々が発案するまで、行政で考えつかなかったことがおかしい。</p>
委員	<p>それまで、行政の縦割りに市民は困っており、それを公式の場で、言葉にし、市の計画に取り込まれたことにも意義はあると思っている。</p>
座長	<p>そのとおり。誇れる成果である。</p> <p>本来、市民と行政は対等であるはずだが、総合計画に関しては行政のほうが考えていない印象を受ける。</p>
委員	<p>その部分については、24年度フォローアップ会議で、7年前（総合計画策定時）に比べると職員に少し前向きな部分が生まれてきているという評価をした。</p>
座長	<p>こういう評価方式を市の職員がどう思っているのか、我々にフィードバックが欲しい。</p> <p>効果が不明であれば、改善もできず、フォローアップ会議の役割も果たせなくなる</p>

	<p>恐れがある。このやり方の問題が出てきているのであれば、整理もしてほしい。</p>
委員	<p>これまでは確かに、広い意味で評価してきたが、続けていると、もう少し中身について、踏み込んでいきたいという気持ちになる。</p>
座長	<p>ここまでの流れもあるので、今までやってきたことは今後も継続したいと思うが、どこかの時点で、この評価方法の問題について整理したい。そうすれば、今後の対策もでき、問題点を明確にできる。</p>
委員	<p>市では数値が整理されていないと聞くので、フォローアップ資料を作り、整理していくことが、部分的ではなく、全体を把握することにつながり、市にとってメリットがあると感じられるようになれば良いと思う。</p> <p>話を交えるが、市としては、行革のように、財政を中心に考えなくてはならない時期にあるとのことだが、そういう意味では、総合計画の基本的な理念に対する議論だけではなく、「商工業の活性化」や「農を活かしたまちづくり」に、どれだけのお金が投資され、どれだけの活性化が図られているのか、具体的なお金の流れに着目して議論すべきではないか。</p> <p>今回の資料でも、市の広報でも、財政が厳しいとずっと言っているが、実は数字を見てもよくわからない。こういうことは市のどの部署で議論されるのか。</p>
事務局	<p>財政課が中心になる。</p> <p>財政状況自体は、できるだけ効率的な歳出を目指しているが、例えば、人口減少等で税収自体が落ちてきているなかで、一般財源といわれる市が自由に使えるお金が減っていることは事実。歳出総額は、年によって波があるが、全般的に落ちていくまでの状況には至っていない。</p>
委員	<p>今までの総合計画は絵を描けば良かったが、これからの計画は、どう動く絵にしていくかが重要で、そのためには5年後、10年後の財政の見通しが必須。フォローアップにおいても、お金と連動した形で事業を見ていくことが必要と考える。</p>
事務局	<p>事務局としても全くそのとおりだと感じている。</p> <p>計画と財政との連動が今後の課題であると痛感している。</p>
委員	<p>財政を動かす理念を持たなくてはいけない。</p> <p>今後はインフラの更新にも取り組まなければならないはずで、後追いになってはいけない。</p> <p>財政支出の効率化や行革には縮小のイメージがあるが、財政と総合計画における理念とが連動しておれば、金額が増えることも構わないと思う。</p> <p>また、財政力指数等々の数値を示され、我々は財政状況が悪いと聞かされるが、本当のところがよくわからない。</p>

	<p>積立金残高に関して言えば、7年前の総合計画審議会では、その時100億円あるものが、7年後には30億円程度になるという資料をもらった。しかし、今の資料(資料10:第6期実施計画9ページ)では87億円となっている。頑張った結果であろうし、これが多いのか少ないのかもよくわからないが、どうしてこのような差異が生じるのか。</p>
事務局	<p>ちょうど第4次総合計画が出来上がるタイミングで、集中改革プランや行革に着手した結果、現在はそのレベルで保たれているのだと思われる。</p>
委員	<p>では、行革は成功しているということなのであろう。 地域のことは地域で考える地方分権社会においては、市民から納得、信頼を得られるよう、より確実に先を見据えた財政運営が必要と思われる。</p>
座長	<p>お金の話のない計画はありえない。限られたものをどう配分するかというのが計画で、ポリシーによって重点配分が変わる。 現在は、実際の支出にいちばん近い実施計画においても、財政の話は財政の話だけでまとめて書かれおり、個別の事業には全く金額が記載されておらず、つながりがない状態。 今までの行政は、市民の要請に対して「プラスかゼロか」の説明だったが、これからは「ゼロかマイナスか」に対して理解を求め、その根拠についての説明責任が増えていく。 そのため、財政と結びついた計画という発想や、市民へのよりよい説明方法について考えていかないといけない。 先ほどの話に戻るが、法改正によって、総合計画の枠組みがなくなったことで、行政が自分たちに本来必要だと思う計画をと期待するところもある。</p>
委員	<p>繰り返しになるが、フォローアップ会議も5年経ち、これまでを踏まえてどう進めていくのかを考えたい。 昨年度は「もう次期総合計画を考え始める時期である」と提言したが、今回はハッキリと、それをやらなければ、これからの自治体運営を、誰がどこで決めるのか。行政が議会に提案して、承認を得るということかもしれないが、プランを作る時の根拠が、選挙の公約だけというわけにはいかないはず。今はそういう時期にきていると思う。</p>
座長	<p>本当にお金があるのか、ないのか、よくわからない。</p>
委員	<p>先ほど、税収が減っているとおっしゃったが、この資料(資料10:第6期実施計画8ページ)では、地方税は平成18年度13,691百万円→23年度13,591百万円で、歳入は合計で40億円ほど増えている。一方、物価はこの間そんなに上がってない。 財源の問題もよく言われているが、本当にそうなのかと疑問。少子化が進む中で、</p>

事務局	<p>減収の見通しがあるから、今から財布の紐を締めていく気持ちはよくわかるのだが。</p> <p>平成18年頃には、三位一体の改革による税源移譲もあったが、近年においては歳出も増加してきている。</p> <p>平成18年度と23年度の扶助費を比べると、30億円程増加している。この扶助費の伸びが大きい。</p>
委員	<p>生活保護世帯の全体に占める割合は10%未満程度ではなかったか。</p> <p>マスコミに取り上げられることで、我々はすごく多いように感じているが、また金額も大きいものではあるが、扶助費は生活保護費やひとり親家庭への支援、障がいを持つ人等への支援等であることを考えると、極端だが、扶助費が多い自治体はセイフティネットがしっかりしていると捉えることはできないだろうか。そういう見方も必要だと思う。</p>
事務局	<p>財源において、自治体の裁量の余地が少ない部分が多くなると自治体運営はより苦しくなる。</p>
<p>～ 休 憩 ～</p>	
座長	<p>事務局から資料の説明をお願いします。</p>
事務局	<p>資料説明</p> <p>■フォローアップシート①（資料2）</p> <p>各事業の実施段階における、総合計画第1章「3つの市民参加のしくみづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①さまざまな立場の市民が行政活動に参加できるしくみづくり</li> <li>②行政職員の市民意識の理解を促すしくみづくり</li> <li>③市民と行政の協働を推進するしくみづくり</li> </ul> <p>の年度別の取組み状況をまとめた表で、平成24年度会議資料に追加した部分にアンダーラインを記入。</p> <p>■フォローアップシート②（資料3）</p> <p>“縦糸”である7つの施策大綱ごとの個別事業の事業費での実施状況と、各事業に関連する「3つの市民参加のしくみづくり」の状況を○×で表して取りまとめたシート。</p> <p>■各種数値データ一覧表（資料4）</p> <p>施策別に、関連する個別項目について、人数や回数、パーセンテージなどの指数を用いて、その推移を統計として整理。</p> <p>⇒24年度備考欄に、変更があった場合や、集計方法等についてコメント。</p> <p>■平成24年度市民アンケート（満足度・重要度）（資料5）</p>

	<p>平成24年度に実施した「市民アンケート」の各項目を、満足度と重要度の面から整理。 ⇒始めにアンケートの概要について記載。</p> <p>■市民アンケート調査結果ランキング（資料6） 平成17年度から24年度までの市民アンケートの満足度・重要度の上位5項目の経年変化を整理。</p> <p>【満足度】 23年度と比べると1・2・3位に変化はないが、「防犯・防災・消防等危機的管理の安心度」が「保健・医療の充実」に、「環境への配慮」が「教育環境」に変わっている。</p> <p>【重要度】 大きく変わっていない。</p> <p>■平成24年度事務事業評価集計表（資料7） 事務事業評価の中で設定している成果指標について、一覧表として整理したもの。予定（目標）と実績から進捗状況を確認する資料。</p> <p>■平成24年度 事務事業の施策別分類（資料8） 全体の事務事業と、そのうちの事務事業評価対象事業、事務事業実施事業（網掛け）等の情報について整理した資料。</p> <p>【平成24年度】 評価対象外を含めた全事業⇒887事業 評価対象事業⇒615事業 評価シート作成事業⇒291事業</p> <p>■前回報告書についての進捗状況（資料9） 平成24年度のフォローアップ会議報告書において提案・提言された内容について、取組み状況を点検・報告する資料。</p> <p>座長 市民アンケート（資料6）について、回答者の居住地区・年齢・男女等を一覧表にまとめたようなものはあるか。</p> <p>事務局 アンケート結果をデータ化したものを担当課で保管している。</p> <p>委員 市民アンケートの満足度で、不満についても満足についても、何が不満なのか、本当に満足なのかもわからない。</p> <p>委員 住んでいる地域によって、満足、不満足に差があるのかもしれない。</p> <p>座長 市民アンケートは分析のしがいのあるデータだと思う。</p>
--	---

委員	各種数値データ一覧表（資料4）11ページ「商業事業所件数」等が調査中とあるが。
事務局	5年単位で実施される国の調査における数値を反映させているものと思われる。
委員	<p>行革というのであれば、こういう部分をきちんとしてほしい。億単位のお金が動くのに「知らない」というのは、おかしい。市がこれにどれだけ投資しているかはわからないが、細かい部分ばかりにではなく、大きな金額が動いているものをしっかり見ないといけないと思う。</p> <p>しかし、別の見方をすると、市は関与できないから、把握もできないということを表しているのかもしれない。しかしながら、それができずに、税収が減っていくことについて、考えられるのだろうか。減っていくならば、なんらかの手を打たなければならないはずで、でも、その根拠となるデータがないとは。</p>
座長	数字自体が統計データであって、現象として現われているが、委員がおっしゃっているように、この数字を分析することで、商業基盤を安定させるために、直接介入できないとしても、インフラとしてどういうことをやればいいのか、フォローアップシート②（資料3）12ページ「商業活性化総合支援事業」などを見て考えられないか。
委員	市としては、地域に根ざす商工業経営の活性化にあまりお金は使っていないのか。企業からの税収はあるのか。
事務局	<p>固定資産税、法人市民税がある。</p> <p>市独自ではなく府で、個人事業者向けの事業を数多く行っている。</p>
委員	<p>各種数値データ一覧表（資料4）の5ページ「プール」に関連して、学校プールと市営プール名称がわかりにくいように思う。また、24年度から（行革の一環として）市営プールを閉鎖したが、今後の対応について、市民生活に直接影響が大きく、関心も高い。</p> <p>平成24年度事務事業評価集計表（資料7）23ページ「配食サービス事業」等について、予定（目標）数値に対して、22年度からずっと倍以上の実績数値になっている。見方がわからない。同ページ「認知症高齢者見守り事業」についても、減っているのか増えているのかわからない。</p> <p>高齢化も関心が高い問題だと思うが。</p>
座長	単年度集計なのか、積上げ累計なのかわからない。担当者によってバラつきがある。こういったことは統一してもらわないと我々は評価しづらい。
委員	事務事業評価にそぐわない事業で、予定（目標）値は入力できなくても、実績値は

	入れてもいいのではないかと思う。経年変化が見られる利点がある。
座長	事務事業評価は全体的に書きにくそうな印象を受ける。
委員	事務事業評価をすることについての、職員の評判はどうか。
事務局	<p>総合計画における計画事業と予算が必ずしも同一ではないため、事務担当者がPDCAを考えるに際し、予算とのリンクに苦慮していると感じている。</p> <p>本来、自分たちの事務改善に役立てるものだが、年数を経たことで作業的になってきている部分もあるかと考えられる。</p>
座長	<p>行政のやり方に合ったものを作ればいいのだと思う。</p> <p>先ほどのフィードバックの話ではないが、意見が出たら受け止めて、良いように変えてもらえればいい。</p>
委員	<p>過去のフォローアップ会議で「事務事業評価をしっかりと継続してください」と提言している中で、事務事業評価の担当が行政管理課に変わっていることや、この事務事業評価を見ると、少しどうかと思う部分もある。</p> <p>資料は公開されるのだし、こういったことで、不信感を抱かれるのは良くない。</p>
座長	本日は、第1章の総括的な評価をするべき予定だったが、どうするか。
委員	私の提案としては、第1章よりも、第2章以降の具体的な部分を見ていくのはどうか。いちばん費用が投入されている節はどこか。
事務局	<p>第7期実施計画（資料10）12ページの中で章以下各節単位での合計金額は記載しているが、あくまでこの実施計画に記載されている主要事業の合計金額である。</p> <p>節単位の総金額では、第2節「適正な財産管理」等の建設関係の耐震関係経費やコンピュータ関係経費が多額の費用を要するものとなっている。</p>
委員	<p>お金の節約を考えるとときには、大きなお金が使われているところに目を向けないと、本当に意味あるものにならないと思う。</p> <p>それは大きな目でみると、地域活性化とも絡んでいくと思うので第7節を見てはどうか。</p> <p>たとえば、耐震工事はどこの業者が実施しているのか。</p> <p>入札制度において公平性は必要だが、他市の業者では、富田林市のお金が他市へ流れてしまう。</p>
事務局	基本は入札となっている。工事内容によって、技術的な部分等もあるため一概には言えないかと思う。

座長	<p>工事発注も地域経営という視点を持てば、地元にお金を落とすしくみにすることが重要だと気付くはず。何故なら、経済は循環しながら拡大していくものであるから、富田林市の中で回せば、富田林市が繁栄するというしくみとなる。</p>
委員	<p>活性化というのは、少ないお金でも循環の回数を増やせば、活性化しているということだと思う。そういった手だてをうまく考えていかないと、本当の行革はできないかと思う。地域で回す取り組みを始めている自治体もあると聞く。</p> <p>地元で技術がないなら、技術を得られるように支援するだとか、地元で循環する使い方がいいのではなかろうか。</p> <p>その辺りにも目を向け、総合計画に見合った形で、地域の業者、企業の参加を市民参加と捉えることもできるのではないかと。できるかできないかは別として。</p> <p>非常に些末なところにはばかり目を向けて、本丸を取り逃がすことになるのではないかと。大変気がかり。</p> <p>検証会議報告書（参考資料4）の結びに「時代を先取りし、他に誇れる総合計画が是非とも策定されることを祈念してやみません。」と書いた“時代を先取りした総合計画”とは、予算と計画とが連動して、かつ予算についても、市民は市との信頼関係の中で関与して、しくみを知るといようなことが私の中でイメージとしてある。</p> <p>今回のフォローアップ会議でも、こういうものをベースにして、理解を深め、提言するような形になればよいと思う。</p>
座長	<p>次回からは、第2章の7つの施策大綱の評価をしていきたいので、第1章はフォローアップシート①を中心に、評価を宿題とする。</p> <p>これから会議を重ねると、様々な意見が出てくると思うが、本日の大事なポイントのひとつとして「計画と予算の連動」。これを次の総合計画に活かしてください、という形でまとめられたらと思う。</p> <p>次回の日程確認をして終了 （第2回：11月20日（水）午後1時30分～）</p>